



中西 顕治

子どもを取り巻く環境整備を

どう考えるか。

問 昨年、子どもの生活に関する実態調査が行われた。

その結果から、食事が不安定な児童生徒が見受けられることが読み取れるが、対応は。

答 規則正しい生活リズムや家族で食事をすることの大切さを児童生徒及び保護者に引き続き学校等で啓発、指導するとともに、平成29年度は子ども居場所づくりの一環として夏休みの昼食の提供をパイロット的に実施する予定。



問 学校での朝食の提供をしているところ、学童保育のように軽食を用意するところもあるが、そういう考えはないか。

答 パイロット的に食事の提供を行って、その調査を見て、状況をさらに検討したい。

問 小学校入学前あるいは中学校入学前にまとまったお金が必要というのが現実である。

就学援助費の支給時期を早くすることはできないか。

答 今の制度では、学期ごとに支給を行っている。就学援助費の中には新入学時生徒の学用品費という費目も含まれている。

就学援助費の支給は、前年度の所得の状況を確

まちづくりについて



原田 健志

一、まちづくりについて 二、通学路の安全について

問 少子化対策について

答 子育て支援の充実は、1万人だからできるまちづくりのファーストステップである。

当初予算において入学祝金制度の創設、医療費助成の対象年齢を15歳から18歳への拡充など、保護者の経済的負担軽減に資する施策を盛り込んでいる。

奨学資金は、今年度より奨学支度金として貸与する内容を拡充していく。こうした施策の効果検証を行いつつ、子育て支援の更なる充実を図ることとで、若者世代の定住につなげる。

問 移動手段の確保は

要な輸送はバスやタクシー、地域の多様な担い手によって支えられているのが現状である。
住民福祉の向上や交通空白地域の解消を図るため、公共交通空白地有償運送運営協議会等関係機関と協議を行っている。

通学路の安全について

っており、防災資機材の整備や防災訓練などの活動を行っていただいている状況である。
これからも積極的に各区に働きかけていく。

問 通学路の安全について

答 子どもの安全については、最重要課題である。いろいろな場で検討し、計画的に順次取り組んでいる。

今後も、計画的に安全対策を進めていく。

答 自主防災組織は地域住民が協力・連携し、災害から「自分達の地域は自分達で守る」ことを目的に結成する組織である。町では、既にあるコミユニティ組織を利用し組織化を進めていただくよう、区長会等で規約案や助成制度を提示し、立ち上げを呼びかけている。現在1地区が組織化され

就学援助の拡充を!

